

「沖繩戦から時が流れて」

古堅南小学校六年一組 泉川 ひより

私達、六年生は、戦後七十一年の今、読谷
村内の慰霊碑をまわって平和集会を行いました
た。私は、「戦争の悲しい出来事」「当時の
人々の気持ち」を心にしまい黙禱をしました。
私のひいおばあちゃんは戦争体験者です。ご
飯を食べなかつたり残したりすると、
「戦争中は、ご飯もろくになく、ご飯が食べ
たくても我慢したんだよ」

と言います。私は、戦争の事をあまり知らな
かつたので、嫌だなと思いつながら食べていま
した。だけど、高学年になつてからは考え方
感じ方が変わつてきました。それは、ひいお
ばあちゃん戦争の頃の話を聞いたり学校で
の読み聞かせで「戦争」について考えたり、
当時の様子の絵を見たりしたからです。

時おり、耳にする人殺しのニュースや誘拐
事件などを見たり聞いたりしても平和につい
て考えるようになりました。平和な世の中

にするにはどうしたら良いのだろう。私は、
そう考えはじめるとなりました。

平和学習で訪れた渡具知で、お話を聞いた
時、私が一番おどろいたのが、今はキレイな
海が71年前の沖縄戦では米軍の船で真っ黒に
染まっていたという事です。今の渡具知
の海を見ても想像がっきませんでした。また、
古堅では、他の場所とはちがい自分達で「戦
争」「平和」の事を考えました。植物や昆虫
などの「命」を感じさせる場面がありました。

ここが静かで安心できそうな場面だからこそ、
戦争でセくな。大人達も安心して眠る事が下
きるのだと思いました。

最後の比謝では、おどろいた事に私の三線
の先生がお話をしてくれました。まだ戦争中
の頃は幼なかつたそうです。だけど、戦争の
苦しみ悲しみ、これからの未来の事を私達に
向けて話して下さいました。いつも沖縄・読
谷村の伝統「三線」を熱心に教えてくれる先
生が、

とし、うれしくなりました。お家に帰るとひ
いおばあちゃんかほめてくれました。私は、
慰霊の日に、自分の思いを伝える事ができま
した。

これから、私達がこの沖縄を守っていき、
緑の平和をつくっていきます。大年生になっ
た今年、平和について考えた、かけがえのな
い思い出が、また一つ「げ」とうらの香りの
風に乗って私達のもとへとやってきました。